

令和元年度 校内研究

1 研究主題名

自他を理解し、あたたかく人とつながる児童の育成
～「特別の教科 道徳」を中心とした、伝え合う授業を通して～

2 主題設定の理由

平成30年4月より小学校では「特別の教科 道徳」（以下 道徳科）が全面実施された。この道徳科は学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。その中で、道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的、発展的な指導を行うことが重要となってくる。特に、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うことや、児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意して指導することが求められている。

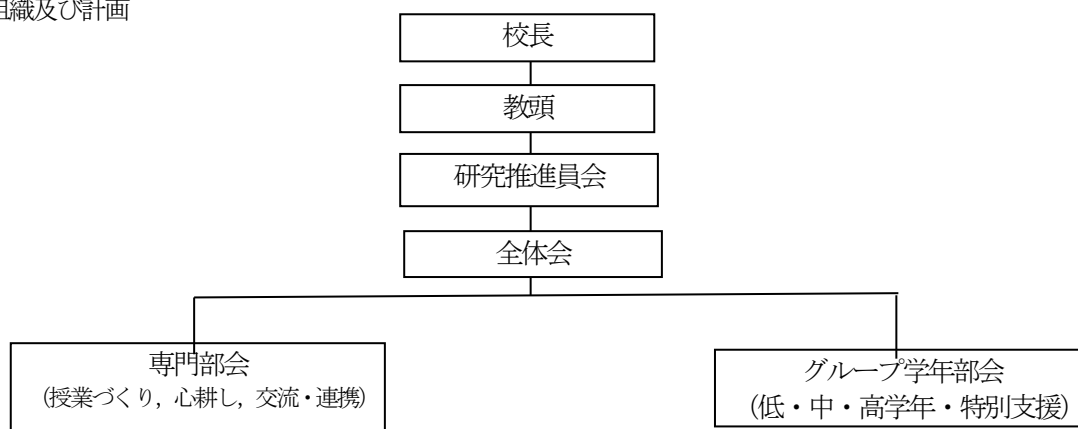
道徳科は、このように道徳科以外における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってお互いの考えや思いを補ったり、深めたり、相互の関連を発展、統合させたりすることで、自己の生き方についての考えを深めさせ、道徳性を養うことが目標として挙げられている。

このような状況の中、本校は平成25・26年度、文部科学省「道徳教育総合支援事業」「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を受け、道徳教育に取り組んできた。その後も、道徳教育を校内研究の柱として取り組みを行ってきた。その結果、次のような成果があった。

- ・ 教科書の導入に対応し、「年間指導計画」および「道徳年間指導計画別葉」の見直しを行い、各教科等における道徳教育にかかわる指導、内容や時期を整理したの見直しを行った。
 - ・ 「道徳の時間」における5つの指導方法の工夫を明確にすることで、共通認識のもとで研究授業を実施する、際の視点となった。
 - ・ 通知表、指導要録への記入の方法（おおままとまりと具体例）が確立することができた。また、各自が冬期休業中に評価を書き、情報共有したことで評価についてのイメージを持つことができた。
- 一方、課題としては、以下のことが残った。
- ・ 「よかよかタイム」の学年の系統性、「道徳コーナー」など細かい提案による共通理解が早い段階で必要であった。また、「よかよかタイム」の柔軟な運用を検討する必要がある。
 - ・ 家庭・地域との連携は必ずしもすべての資料でできるものではないが、連携が図れるものやふれあい道徳などを積極的に活用し、機会を作る必要がある。

そこで今年度は、道徳の指導法についてはこれまでの成果を十分に活用し、教科書に合わせた資料の作成・収集を行いながら、本校で取り組んできた「よかよかタイム」を他教科でも展開することで、目標にせまる指導法の工夫について研究を進めていきたい。

3 研究組織及び計画



研究組織	業務内容
研究推進委員会	研究の方向性や内容の決定、学年部会や専門部会で取り組む研究内容について検討・調整と実践に向けた研究の推進、研究内容の共通理解を図る。
学年部会	研究内容の具体化・年間指導計画、別様の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・「心に響く道徳の時間」の授業実践（資料等作成・保管） ・「よかよかタイム」を生かした他教科の授業実践 ・成果と課題のまとめ ・「道徳コーナー」「心の広場」の掲示 ・アンケート、調査等の分析、考察
心耕し部会 【徳の部】	○心の安定、自己肯定感を高める日常活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「心の広場」 ・「ぼかぼか集会」、平和集会 ・Q-Uテストの集計・分析 ・家庭や地域社会活用 ・情報発信 ・「道徳コーナー」 ・「ぼかぼかの木」 ・佐賀市「いじめ・いのち」の日 ・「立腰タイム」
授業づくり部会 【知の部】	○「特別の教科 道徳」の考え方の具現化 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育全体計画作成 ・道徳ファイル ・ICT利活用の推進 ・年間指導計画の作成 ・「よかよかタイム」ファイル ・データ管理
交流・連携部会 【体の部】	○道徳と関連した体験活動の充実と連携 <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり活動 ・小中連携 ・校内掲示計画 ・体育的行事 ・児童アンケート集計、分析

研究の計画

研究の目標

【1年次】これまでの授業実践を基にして、主に話し合い活動を用いた授業の構築

これまでの道徳教育の研究を土台に、「よかよかタイム」を生かした道徳・他教科の授業実践を進めていく。

研究の内容

年間指導計画の作成

「特別の教科 道徳」の理論研究

評価についての理論研究および実践

これまでの研究をベースにした道徳並びに他教科の授業実践

4 研究の内容・方法等

研究の内容	研究の方法	目指す姿
「特別の教科 道徳」への対応	教科書に対応した年間指導計画および別様を作成する。新しい指導資料に関しては場面絵、ワークシート等の指導資料を作成する。 評価の仕方および記載について講師を招聘し、指導・助言を受ける。指導要領、通知表等への記載の検討、実施を行う。	教科書に対応した年間指導計画、別様を他教科との関連、行事等を考慮し、作成する。それにより、行事等の道徳的価値を明確にした指導を計画的に行う。 グループ研究、全体研究を行い、それぞれ公開授業および授業研究会を行う。心に響く「道徳の時間」が達成できたか、評価はどのように行うのかを検討し、指導力向上を図る。
これまでの研究を継承した授業の充実	道徳の時間の充実(発問、話し合い活動、家庭・地域との連携、資料提示・板書の工夫、終末)を意識した授業を展開する。 道徳で行ってきた話し合い活動を生かした、他教科の授業実践も行っていく。	小中相互の情報交換やテーマに沿った協議、道徳日より「よかよか通信」の積極的な発行や保護者参加型の授業に取り組むことにより、9年間の縦のつながりや家庭・地域社会との横のつながりを意識した実践を重ねる
日常活動・体験活動、小中・家庭・地域社会連携の充実	たてわり活動(掃除などの日常活動、遠足や運動会などの行事的活動)の充実を図る。 各行事における道徳的価値の明確化を図る。	

5 期待される成果

- ・「特別の教科 道徳」の趣旨のより一層の理解と指導力の向上(成果分析:学校評価、道徳アンケート)
- ・自分の考えを進んで伝え合おうとする態度が見られる。(成果分析:授業アンケート)
- ・思いやりのある行動がふえ、他者との関係がよりよいものになる。(成果分析:Q-Uテスト、道徳アンケート)
- ・小中・家庭・地域社会との連携が強化され、多方面で児童をみつめ、心を育成していこうという気運が高まる。
(成果分析:学校評価、道徳アンケート)